

ギャラクシー賞受賞

ラジオ部門 優秀賞

福井放送

FBCラジオスペシャル

「輝く! ゴールデンエイジふくい
～生きる喜び 歌にのせて～」

昨年10～12月、FBC福井放送の密着取材を受けてできたラジオスペシャル90分番組「輝く! ゴールデンエイジふくい～生きる喜び 歌にのせて～」が、2023年度ギャラクシー賞・ラジオ部門**優秀賞**に選ばれました。

ゴールデンエイジふくいの団長齊藤厚一さんにお話をお聞きしたところ、「この番組は、昨年12月30日に放送されましたが、取材では、練習風景を撮影し、指揮者・団長・団員がインタビューを受けました。それが受賞につながって大変誇らしいです。また、なんと世界の小澤征爾さんとともに3件の優秀賞に選ばれて大変光栄です。」と喜びの感想を述べていました。

ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞受賞

ギャラクシー賞は、全国の民放・NHK・FM放送の2023年度ラジオ放送の中から選考委員会が100件を選び、最終審査で賞を決めます。ゴールデンエイジふくいは惜しくも大賞には選ばれませんでした。優秀賞3件の一つに選ばれました。

- 大賞:SBSラジオ『SBSラジオギャラリー「方言アクセントエンターテインメント～なまってんのは、東京の方かもしねーんだかな～」』
- 優秀賞:空想労働シリーズ サラリーマン(RKB毎日放送)・FBCラジオスペシャル「輝く! ゴールデンエイジふくい～生きる喜び 歌にのせて～」(福井放送)・TOKYO FM 小澤征爾追悼番組「セイジ、フォーエバー」(エフエム東京)

<https://78.gigafile.nu/0704-ce1e9783d926d521f6bb6b2c58e0cfbea>



授賞式の模様 クリックするとご覧になれます

ギャラクシー賞は、放送批評懇談会が、優秀番組・個人・団体を顕彰するために、1963年に創設しました。放送業界

で最も権威のある賞の一つです。毎年、映像情報メディアに関する研究や開発で著しい功績をあげた個人や団体に授与されます。

審査は放送批評懇談会会員から選ばれた選奨事業委員会が担当します。賞の決定を第三者に委託する顕彰制度が多いなか、ギャラクシー賞は、放送批評懇談会の会員が一貫して審査にあたり、賞の独立性を維持しつづけています。

現在、ギャラクシー賞はテレビ、ラジオ、CM、報道活動の四部門制をとっています。毎年4月1日から翌年3月31日を審査対象期間と定め、年間の賞を選び出しています。

法政大学アリオン『萬歳流し』

第13回東京六大学OB合唱連盟演奏会が6月16日行われます。

演目は立教グリー「7つのスペイン民謡」、慶應ワグネル「ひたすらな道」、明大グリー「漠とした輝きの欠片」、東大コーラアカデミー「水のいのち」、法政アリオンコール・オールアリオン「萬歳流し」、早稲グリー・稲門グリー「東京だよおっかさん」、合同演奏は「エール交歓」です。各大学とも現役メンバーの減少で厳しい状況に置かれるなか、OBたちが男声合唱の灯を絶やさないう、仕事や家庭を抱えながら奮闘しています。

中でも、法政アリオンコールの『萬歳流し』は異色の選曲といえます。作曲した柴田南雄は秋田県の横手萬歳に注目し、これを声楽作品としました。

萬歳とは、今では見るのがなくなりましたが、太夫と才蔵と呼ばれる二人組が新年の家々を廻り、祝いの言葉や面白い話を伝える古い職業のひとつです。

演者の半分は舞台上で歌い、残りは二人一組で太夫と才蔵を演じながら客席をまわります。西洋音楽理論と日本伝統が融合された現代音楽でありつつ、観客と直接コミュニケーションを構築する興味深い作品です。ホール全体を音楽と演技の空間として満たす、いわゆる「シアター・ピース」で、演奏自体が「不確定要素」を内包しているため、ホール全体つまり演奏そのものがひとつの作品となります。アリオンコールが1975年委嘱初演(指揮田中信昭)した伝統の曲です。

<https://www.youtube.com/watch?v=SuzJxBxIqRs>

『おんがく広場』編集委員の野口享治さん(法政大学アリオンコールOB)は萬歳をし(謡い)ながら会場を流して歩きます。御捻りのひとつもあげたくならないでしょうか。乞うご期待!